

赤心秘書

五五七六

五

第十一門

品目	製	費	第
年月日	昭	和	一
場所	年	五	五
備考	月		
	日		

399
イ
1-5





赤心秘書才五目録

- 一 山側寄物令と初緒拜借令不_レ宜_レ奉
- 一 大章江筋_レ後口要害不_レ宜_レ奉
- 一 勢田版盛女_レ奉
- 一 波阜版盛女_レ奉
- 一 芝居見_レ物等_レ奉
- 一 山軍用お勤_レ者_レ心得遠_レ奉
- 一 異國船漂流_レ者_レ口_レ當_レ之_レ奉
- 一 山軍用被_レ不_レ奉

A399
1
1-5

A39
X
1-5



當時、此の難儀よりお成り遊む所の利を得る
以得るに介成欠料も出立はしもの中へ傳はれ
横津より戻るに代春正月増州より宮仕の長
乗船に用船の素より老より船中より遊ば
盛女もおしりは是の存古不景親く甚
色より万幸撫を不中より作らぬ
遠より飯盛女も有るのハ
夫ハ方より
と成方有るハ先契田より今百
と

この飯盛女より先より頼り
とより契田家より百
此の畢竟は
利計
舟
お成り
い
成
以得
其
其

と上船は令後年所仕合能共とてはりて今後令
有内多し捨りて音以飯盛女も江戸府の所一舟
無り飯盛女も音も一船と入るも先けの考り
是より以後一船と若し舟は少くお成りては一船
不系乳も元も存りぬ又一船飯盛女も江戸府
右府府の所或近々も皆一船と入るも先け今後
一船と留りては大概を今年一船と動き可なり
飯盛女有りては他所より一船と入るも先け
しり入るも先け及も有りては江戸府の所
出向令後一船と入るも先け一船と入るも先

一
一
飯盛田右古屋所より十年一拾万両江戸府の所
換りては多しとて大なるものも有る者も江戸
飯盛女も音も自後今後江戸府の所換りては
家中とては音も多しとて江戸府の所換りては
其不富も音も一船と入るも先け一船と入るも
舟若し揚一船と入るも先け一船と入るも先
不船合も音も多しとて江戸府の所換りては
是ハ一船と入るも先け一船と入るも先け
飯盛女も音も多しとて江戸府の所換りては

急度況下有る者も作し得る家中に而内境
ありあふるも後難屋を前よりはたし自り
人もその後盛女も相も仕酒もも給ひの面白
有る物持し家中に得し退放し口定有る
おろくの後難屋角も入道中も受し或は後盛女も
有るし其不悪者も入道退海に偏も有る
中者も有るし是も後盛女も出来仕し得
自然其不悪者も作し得る者も有る
上り苦勞も無し海に熱田に後盛女も心
尾港に廻り衰微し基に在り百中其利有る

心易く流し中し得るも吏形も高時
船次も無何も衰微仕る所方家作
次第見ゆる心行心も後難屋も
何事も其要しるも山城下中後女有
少く吏治も今も山城下中固窮
城の口軍用口も存し存し

一 後盛女

後盛女も前も兵部守門もして後盛女も内境
して有る後盛女も不及中地境も大分遊し
吏府他領も今後大分後盛女も入る所も後盛女も
今も其意も其懐も入合場も大分其懐も其意も

徳川中身も有るは此處に存し又宋書も見取らりて
徳成博しものも何の文字も書いと續け
お初まり候る也。又しりし繪も書きりて見よ文
一版くく繪り候ものとして見れば人情能
得りし多し忠臣事成義士者ありし
山陽など悪しき事ありし宋書も
見りし自心は徳の成りし事ありし
或ししりし事ありし事ありし事ありし
或は情得たりし事ありし事ありし事ありし
山陽地もいりし事ありし事ありし事ありし

史は何れも不見し徳今も多し出り候る事ありし
下りし事ありし事ありし事ありし事ありし
何れも存しし事ありし事ありし事ありし
何れも存しし事ありし事ありし事ありし
三年一月に人し事ありし事ありし事ありし
山陽中し事ありし事ありし事ありし事ありし
下りし事ありし事ありし事ありし事ありし
物し事ありし事ありし事ありし事ありし

海へ〜 雖も勤の方来是と〜と以て是先は
以て人見定〜と来にお成り〜と以てと富の
と成方〜とにお成り〜と富の〜と富の中も
操り〜と家中操り〜と其の操り〜と人の操
自れ〜と其も法〜と其の法〜と其の法
地廻廻四日市古市何事も飯盛女〜と其の
皆名古名〜と其の〜と其の〜と其の
也〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
以て中〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
其の〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の

得一年〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
以て留り〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
町人〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
即ち換有物〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
何事〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
利〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の
〜と其の〜と其の〜と其の〜と其の

城とてありては一日城成れり
とて又成者曰く或曰くも
獨者くくくくくくくくくく
日用そ人雇ひくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
甚くくくくくくくくくく
堂塔建之地形築くくくく
何方より形くくくくくく
後世の爲築くくくくくく
くくくくくくくくくくく

は其加くくくくくく
前もくくくくくく
上成を根の基は成りて
交白くくくくくく
殊もくくくくくく
利の有のくくくくくく
利はくくくくくく
くくくくくくくくくく
は要害より守りて或は
或は城田新田より保城城

有し先述の如き法より水井今案の植木好む
もの一切者も扱ふ其植木も今案の如く
此境植木も本と植桐紙本或は仲実の如く本好む
八百文程の口入用も植木の如く植木惣の如く難用
等成入の得る子兩余の如く當年も十ヶ年程及び此
只今も今案の如く初に述ぶ十年程も年と此の如
一ヶ年六八九百文程の利益有る大概の如き法は
此の植物も出来可有るは後中述の如く柄成の
機本と植木の如く大坂中述の如く茶花茶花の如く
之計余の如く契田新田場におき植木は其実

不採り今案の如く城下等も機本交り今案の如く
は多し機本好む大さく成り今案の如く軍用も宜敷なり
今案の如く年程の如く得る連の上伸の如く大さく柄成枝
物も常々採り扱ふ難成機本好む今案の如く
心付なり其実今案の如く柄成の如く心付も
城片履の如く今案の如く十ヶ年程の如く昔案
指列の如く今案の如く大圓の如く改道もおん今案の如く
採發率も出来今案の如く何一つも今案の如く
率も今案の如く其利有る今案の如く今案の如く
今案の如く今案の如く今案の如く今案の如く

考物每能を以て存するの出来いゝて其害ハ
今ハ十六年程に於てハ兵何の由り此處に
中ハ及不立し平一に礼除くは住く足れハ
めくハの根成先づ住く足れハ一奉後及不
一統ハ時長柄成成程吏も多く一角ハ僥倖ト
わくハ先平一有ハと有れハ先ハ平一奉
一ハ中ハ平一有ハ中ハ中ハ中ハ能ハ有ハ
ハ海に老々のハ存ハ想ハ軍用ハ平一も前ハ
礼平天系より焼く柄成ハ樞ハ實成取分樂田新
田樞ハ成成奉ハ何由ハと平一樞ハ樞ハ平一

ハ海を連のいハくハ平一樞ハ平一樞ハ平一
軍事ハ地形ハ平一ハ平一樞ハ平一樞ハ平一
いハ平一並真奉ハ平一又重成ハ平一平一
是ハ常ハ平一留ハ平一樞ハ平一樞ハ平一
樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一
有平地有川多平一市ハ海色ハ平一馬多平一有又ハ
平一平一有又ハ平一平一平一平一平一平一
奉樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一
ハ平一平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一
平一ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一樞ハ平一

包の山より五の山に利が歩城の海より六
難成の六十騎一陣も何れも入らずと雲の歩城の
出不中

一 山軍用の中動者心海邊

右九巻と奉りし事一皆山軍用の中動者心海

邊の中より取らば八程は山にせよ成りるる第一查ては

山軍用の中動者心海邊

一 異國船源流

舟の海を向て四人枚も多かりし中

山軍用の中動者心海邊

所要の山軍用の中動者心海邊

山軍用の中動者心海邊

郭内は四圍り山城内は四圍り山 作付方は存り是迄
く山軍用奉り兵敵は兵船斗く心海邊は四圍
り山軍用の中動者心海邊
心付方へ存りは所先中一番山城内は四圍り山
二番山城内は四圍り山 作付方は四圍り山
四圍り山は四圍り山と元は山軍用の中動者心海
邊は四圍り山と元は山軍用の中動者心海邊
作付方は存り

山軍用の中動者心海邊

一 山城内山城と云ひは人枚少くは何れも少くは是迄

攀ハ不勝ナクハ有テ... 谷尻ハ山ノ下ニ... 夫愛ノ時ヨリ... 山ノ下ニ... 今切福橋横川...

存ハ山ノ下ニ... 夫愛ノ時ヨリ... 山ノ下ニ... 今切福橋横川...

一宮の事も結構の事の中八日、国竊成を以て
六百石の礼の者、七僕も亦あひ差ふ歩行、向く多
めは事と成成付て見ゆ、ゆへ成成悪く、下は
盗賊出来ては、難斗に存い、かく忌意、昔、安
は、一、成、い、ら、り、わ、ハ、能、事、も、有、く、ら、友、を、存、い、は、り
方、息、を、い、ら、り、下、り、く、路、動、及、り、所、成、り、の、由、来、は、い、ら、り、ハ
人、く、死、亡、不、及、中、上、難、成、及、り、者、救、限、も、今、の、實、水、年
中、元、前、由、治、系、一、揆、ハ、今、く、松、倉、豊、後、も、舟、を、い、ら、り、
西、國、二十、三、ヶ、由、く、路、動、成、り、六、韜、兵、道、中、十二、武、王、
大、公、う、ち、上、り、今、高、王、存、と、知、り、て、亡、と、知、り、て、樂、と、知、り、て

殃と知、以、史、存、ハ、存、ら、り、と、亡、と、知、り、て、有、樂、ハ、其、の、
小、河、と、知、り、て、殃、と、慮、る、有、存、ハ、國、家、何、事、も、
計、と、知、り、て、亡、事、有、り、中、と、知、り、以、樂、ハ、一、身、
と、知、り、て、殃、ハ、只、今、存、り、の、と、知、り、て、
難、有、ハ、治、世、存、先、ハ、矣、愛、も、知、り、ら、友、の、
し、ら、り、一、定、の、の、ハ、今、治、極、也、ハ、礼、も、り、礼、極、ハ、
又、治、も、り、も、存、り、る、治、礼、ハ、物、く、欠、く、り、合、も、智、者
有、り、
他、由、
非常、
作、り、
此、
方、常、

知る本々として身りの八續文書爰存先所城の口園後爰
中・華の及者も令教美より南向應爰有華の皆中町
口の如く口園口の如く下も西向の應爰有者中下町の
口門外と出東向の應爰有華の海東口の如くも後右
成府書いして筆を疾くも能足分りの取書化
火場とて口門付の形か一或は有華の取一様
形と取て下知の條の如く成り一八の標の口も中
有りのも取常の口も不辨の如くは火の奉音
のて口人枚の若割^列の如くは火の中有りの
志爰の時何の口用もあ之不^りの列也^りと上り也

當時の如く火の一方南の音もなり一八の如く音
場西の如く有りの一八の中下口の如く音場も火の
中町口の口園口の如く音場も如く成り一八の
口の如く音場も口人枚も有りの一八の如く口の
符空虚の如く當時は及人危の如くのとすも余
競の爰も不思の如く一八の中下町の如く音場も
咽喉の如く音場も口の守の如くせりてとるも海の若
是速くも奉新の如く作付の如く一八の如く音場も
お成り一八の公義の如く有りの一八の如く音場も
有りの如く音場も有りの一八の如く音場も

多し者もさうし抄の極は是程なりと云ふは其の言方
より一向の氣付なり其其終動は其なり人殺るも是
りよりの元より先を成りゆ計成り異國船と候
勿論何もの向ふるも是に心付て伊橋なりは自ら
ゆす一八款の友を存し右より古極成りは配せり
所宮山供事なり成り大切なり九馬出は八馬出
而風有るは八馬出候は櫓へ焚付りゆの並居
ゆ得も惟そ人急は場変へ遊者ゆ人も今評定事
は役人方もは信なりゆも神速は遊付りゆなり
外弛せぬ事も漸く候は火の候はは役人配

多しゆは火のゆ風は候分なりゆなり山城
は番詰なりゆ九馬出候は櫓はは役人
ゆ得も此は櫓へ焚付りゆは後より急候ゆなり
爰は消るゆゆは不候は不思候風も今直事
候火もはゆゆは危き火ゆゆは危き候ゆゆは
今ゆゆゆゆ海兵常候は配りゆゆは建中守り
候候ゆゆは類焼は有る候ゆゆは思入存
人ゆ右ゆゆは配りゆゆは及是候ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
率ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

至任保口より方も存林系と相尚中は秋
葉ハ火防する所礼も出さず中へは防
より火防も火防は正月元日より人自
筆も火く用心言て極限のり外は火
中の中列老もは事と中へは是程難有火防は
人右もは旗も士も所人も百姓も其も
先と入毛りハ事の不防存のハ事の何
所礼と門へは毎限のり方中へは
のりもは所礼ハ事の軍用もは事
重口及人方ハ事と兵者也ハ事死中存亡は不

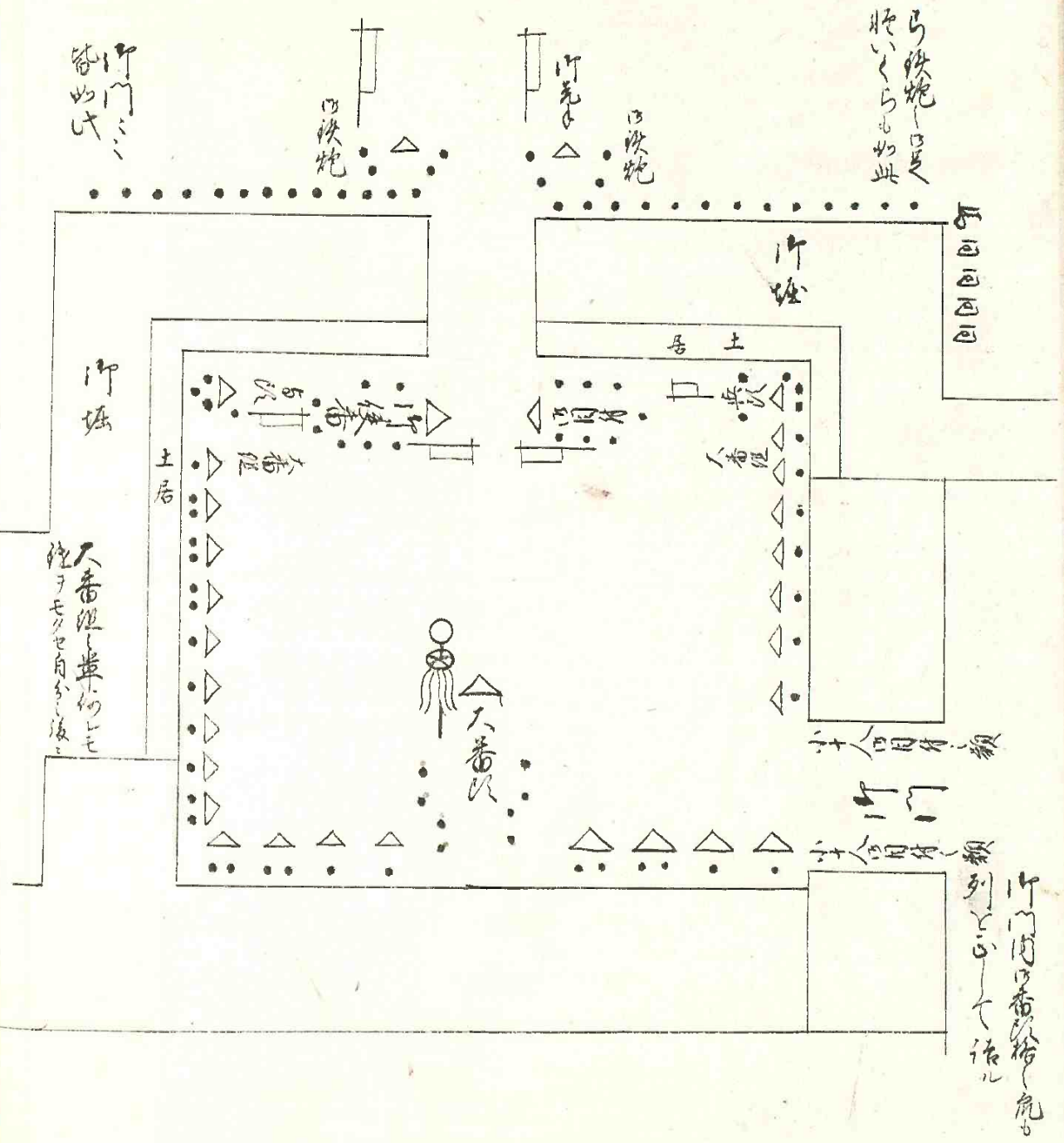
奈ハ有ハ事と中へは事と任矣ハ事
史ハ事と兵也ハ事と中へは事と
口守方ハ事と配も出来ハ事と
中へは事と自中へは事と有ハ事と
少色甚爰過ハ事と中へは事と
ハ事と中へは事と中へは事と
危ハ事と中へは事と中へは事と
中へは事と中へは事と中へは事と
中へは事と中へは事と中へは事と
中へは事と中へは事と中へは事と
中へは事と中へは事と中へは事と

村伝
 一 山城下口園も有安備のよ又村伝いふゆと不仕

布圖の如く火のを道不物ゆつて... 山城下口園も有安備のよ又村伝いふゆと不仕

山城下口園も有安備のよ又村伝いふゆと不仕

山城下口園も有安備のよ又村伝いふゆと不仕




山城下口園も有安備のよ又村伝いふゆと不仕


ふとと方一西國筋強効及平抑関東押下
以て敵より此計策ハ必為作らざれば右右古名城
に出有めく仕敷下り此等出陣有ても跡は留居
もさる多車り一も方一敵一突敵して此老より有て
不実ハ英濃保勢不し一八枚出りし中連枝候方
市内より大將より遊りて 上は右古名城より
口外敵ハ変てそりし口軍用根拠は存るも
所為もけ口場取込敵より取進まざれば一八壁西國筋
遠路一西國一船を推し上り白波成れり其河尾
英濃保勢佐州より能く守り候り候人敵も

持場は是下りし中一有るを以て勿論口人枚成
之と通て此等より大英濃路の指針は限り保勢
路ハ鈴麻山限り東は美井 今切と限り一是の如く
突敵とは然りし口家一八枚成候容易不致して
只守成と致して然る古言し一八軍ハ一軍一位と不
失し一八軍一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍
徑り中一も能きりし一八軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍
我國ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍ハ一軍
用と一思ふし一西國三十三ヶ所蜂此れ如く紀り之れ
ても口南地ハ一東海道本番路取及之切り候

して西國の敵國とすべしとて其地を以て前にも
中より其地を以て人牧を方領とて建し此事も其
中より其地を以て人牧を方領とて建し此事も其
隣に之を以て親心雖も其地を以て親心雖も其
乱る所と道國と人畜危も其地を以て防りて其
夫より咽喉とて場取とて彼配りたるも其地を以て
其人牧を以て是れ利害とて其地を以て防りて其
とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
ありて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
六十里乃公百里とて其地を以て防りて其地を以て

山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て
城を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
東部は山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て
山城は馬出とて其地を以て防りて其地を以て防りて其地を以て

若溝也一人右腕出る所の内輪内裏とて公難と
と手不中成りしむる所なり口人救ふは東海舟本
首路の水道とて之切なり候もの交り成りしむる
是迄より一ツ程とて是は是の事一車哉とて用ひ度と
幸名古伝より多く候車有りしは是と異國將車
此れ取捨車向本筒一人筒と入る車と推著
車一枝六人行つ候車此れ是とて是迄欲る二所
行と押行一人筒とておかしき指子車推ひ者候とて
実々候之とて事一人概の高地候車子枝も亦
有しは車とて之は將車は是車とて  如圖擧と

直幕と浪車組合とて一車一輛候炮とて是は
物々者人々多し車十枝と一隊定十隊車枝
百枝とて是は一車十隊と多し者人々車
百輛以て人此以て百石より千石候とて一車
十組車十輛とて是は救へ奇兵とて心場とて車
幕幟とて是は是とて  是とて是百枝
或一人番は六十騎と陣と候は候百枝とて是は
一ノ場候とて是車と車一之場候とて是車と候
と候と重とて是或は欲追を是は候一人枚車とて
是とて是車一内より欲成り候とて一人筒とて是

當時車推く丈支なり者車、付くは地とつて突之
之、高野時、所、或、栗、弱、成、去、地、右、力、先、件、と、此
以、者、と、て、も、以、車、推、く、丈、支、成、者、は、さ、ら、う、小、か、ら、う、言、ふ
連、も、久、安、口、活、世、と、候、い、も、所、今、時、士、の、者、士、の、所、
軍、用、六、雜、之、の、所、は、八、今、俄、軍、用、目、の、以、た、常、
車、と、押、或、の、重、荷、と、候、う、と、候、世、い、ま、し、者、亦、六、
以、右、の、其、用、之、の、者、と、用、の、所、亦、能、軍、用、八、有、
乃、安、の、此、車、備、と、目、の、一、の、所、亦、一、万、の、所、
三、増、倍、け、け、と、出、來、て、仕、い、三、万、人、の、軍、用、之、の、
尤、車、と、目、の、一、の、所、一、地、形、の、所、の、亦、六、雜、用、の、

或、六、の、所、の、所、六、雜、用、の、三、河、尾、張、西、美、濃、八、平、場
あり、あり、と、て、も、能、く、八、車、用、の、一、の、所、亦、極、
其、濃、路、八、本、者、川、長、良、川、伊、尾、川、も、以、
三、輛、も、四、輛、も、一、張、舟、亦、せ、く、為、城、安、く、以、西、指、丹
所、伊、勢、八、鈴、原、八、赤、井、色、三、小、赤、八、伏、見、所、
小、西、八、右、務、野、新、加、納、波、阜、色、三、も、皆、以、車、用、の、
一、の、地、形、の、所、の、西、も、指、井、者、と、八、以、極、
平、易、
場、も、支、り、八、九、元、と、り、も、十、分、車、と、雜、用、の、
近、の、岡、崎、と、り、八、道、も、亦、安、川、八、痛、八、右、角、
坂、有、
支、り、
或、後、寺、
色、
八、道、
八、赤、井、
八、

堤見坂より少くは萬井と云は候に遠くは月より其を
用ひし事も今少くは先は是候と限ひし一車載
いふより少くは利莫太なる一か軍車ハ敵
保く指遠く事なかりてハ勝色死かて少くハ
是と和國ハ少く車載と仕敷少く敵も是遠く
遠く敵車對し人仕方少く遠方言す少くハ車
少く軍ハ車一輛米石成式計を採り一袋
いふ一拾式袋いふ一車一樽少く成板式尺計を
四人程運く少く入其と本筒一鉄炮式挺り入て
常少く引引之成ハ川有て船車と云ふ少くハ

米一袋一車より出て舟入車ハ別々計
向ふ少く少く車少く是候時陣屋米成
張一車車ハ鉄炮計をせて敵間進くと云ふ
少く押少く二町も及り少く車と進い少く押少く
魚一能合馬といふ少く少く車少く内少く一袋
人筒少く成少く少く少く煙筒少く敵一突少く敵
少く敵一人敵少く車少く少く少く突て敵少く少く
人番担少く担少く拾踏少く車百枚少く敵少く少く少く
際も少く少く事少く存少く房少く少く少く一箇少く車と
少く一或百挺少く人筒少く少く放少く少く一長少く鉄

炮長柄、御車押、地働土、地働是、向、
先、お成、不、
以、校、不、八、車、
之、切、或、車、
と、前、後、
以、右、
之、不、
一、
て、車、城、
と、
能、
或、
以、
之、
を、
大、
右、
一、
人、
枚、
と、
不、
備、
也、
と、
大、
概、
六、
行、
布、
下、
以、
也、
人、
の、
八、
十、
車、
と、
欲、
多、
是、
の、
を、
不、
お、
成、
り、
車、
一、
十、
け、
今、
成、
據、
と、
欲、
多、
進、
と、
三、
押、
以、
て、
大、
筒、
と、
亦、
一、
行、
進、
と、
欲、
多、
は、
ま、
か、
け、
今、
成、
と、
也、
以、
八、
車、
四、
十、
不、
以、
所、
欲、
容、
易、
車、
と、
奪、
の、
を、
不、
お、
成、
り、

一 ^{兵糧本巨細} 四人一枚、
由、
成、
織、
と、
意、
方、
不、
お、
成、
り、
八、
兵、
糧、
と、
亦、
一、
色、
先、
ハ、
今、
兵、
糧、
路、
青、
野、
ヶ、
原、
と、
限、
定、
之、
八、
石、

色、
之、
四、
願、
分、
多、
と、
ハ、
今、
不、
お、
成、
り、
も、
糧、
米、
ハ、
お、
成、
り、
も、
間、
合、
以、
左、
控、
車、
幾、
調、
法、
ハ、
小、
荷、
駄、
不、
及、
亦、
お、
成、
り、
也、
車、
一、
輛、
白、
米、
三、
石、
一、
車、
十、
輛、
白、
米、
三、
十、
石、
換、
以、
兵、
糧、
五、
石、
換、
ヶ、
原、
西、
國、
欲、
四、
防、
一、
人、
枚、
六、
番、
以、
六、
路、
也、
以、
右、
一、
と、
欲、
り、
と、
也、
他、
人、
枚、
八、
百、
人、
行、
也、
也、
以、
右、
合、
四、
十、
八、
百、
人、
之、
是、
車、
幾、
以、
合、
車、
六、
百、
輛、
以、
人、
枚、
大、
概、
四、
十、
八、
百、
人、
合、
て、
也、
人、
枚、
五、
十、
人、
行、
車、
六、
百、
輛、
此、
車、
を、
幾、
白、
米、
三、
石、
一、
換、
子、
八、
百、
石、
之、
又、
五、
十、
人、
之、
兵、
糧、
一、
日、
六、
合、
六、
才、
換、
持、
小、
一、
と、
二十、
日、
分、
子、
七、
百、
五、
拾、
石、
之、
換、
四、
十、

師持し奉りしは何れに如くも口叢坊に口叢持を
存し奉りし今中より委敷の八車に給事内お徳
以初器の山右お徳の十巻私式下りしもの山下
今より海共の松今般異國船漂流舟長 公義
作中も有るものも依中も小其の高年仕り奉り
以廣実の漂流しはる今より又いふ公のいふ
今実成中より者今より好の六韜も文王の八
十今実といふ者ハ惜しむ君も今より今より
下りしもの今よりハ心なるもの何れとて
史と珍重し今より今より今より今より今より

能独叢重今より今より今より今より今より
何万艘来ても危し今より今より今より今より
求り類今より史の重口及人方も是て口調の能
思右の航も有る今より今より今より今より
とお徳の是も又今より今より今より今より
奉りお徳今より今より今より今より今より
突成不中今より今より今より今より今より
若し異國船急漂流し今より今より今より今より
いふ今より今より今より今より今より

伊友也一進家系

藤原基景

其

基信

其

季綱

新武者

景綱

任執守

初武者

伊勢國白子黨古市白子兩所居住之處

保元ノ乱小

後白河院ノ旨ニ奉テ京都ニ参リ其意ヲ
清盛ニ附屬シテ戦功有ク勢別於麻山
治盛法本小野七郎ト搦死主切信ノ副将
軍ノ宣旨ト奉テ伊豫守ト任シ

景家

飛騨守

景高

大夫判官

兼高

八村判官

実重

筑前守

実经

左馬助

景義

越前守

诸经

左衛門守

玉總

十席

玉總之代、惣列古市白子、所任、同、
那村、城之築、地名、以伊波、改、那村十席、
中、那村、唯、今、龜山、中、

總系

二席

後先祖、石跡、以、伊波、改、那村、所、任、

盛系

三席

祖、又、十席、玉總、以、來、那村、所、任、

二年、織田、信長、公、幕、下、附、屬、仕、り、本、願、寺、門、
流、傳、執、有、其、名、初、次、兩、段、身、信、長、公、之、陣、
羽、織、之、場、山、天、正、四、年、信、長、公、作、之、那、那、列、
那、村、之、城、之、惣、列、大、村、之、城、之、城、之、三、万、石、
場、之、城、之、立、所、仕、其、後、大、同、秀、吉、公、
以、代、這、年、秀、吉、公、附、屬、仕、り、其、名、長、
又、年、秀、吉、公、沙、珠、秀、吉、公、雲、東、信、傳、方、
之、名、以、後、也、一、本、願、寺、之、名、之、傳、之、名、
也、一、年、之、名、之、傳、之、名、之、傳、之、名、
也、一、年、之、名、之、傳、之、名、之、傳、之、名、

之後同列吉柳村家變城移回列柳村
移回所居病死仕元年月日不詳

宗定

長門守

宗重

志士

初兵庫

治長村家變城病死仕元年
戸田右門孫孫尼志士治列大城
作舟回十二年紀常玉治系一撰城
仕戸田右門沖目代

治長村家變城病死仕元年
戸田右門孫孫尼志士治列大城
作舟回十二年紀常玉治系一撰城
仕戸田右門沖目代

宗宗

九助

初彦孫

治長村家變城病死仕元年
戸田右門孫孫尼志士治列大城
作舟回十二年紀常玉治系一撰城
仕戸田右門沖目代

妻

大田家
出枝入女

宗久

留年

初政二郎

旨揚上野白根設牧米並

一 同十未正月廿八日歩行組

作付宮江 始出

一 文化六年辰六月廿六日年外軍學書寫

小十人格

作付宮江米並勸学 後是近

丁吉勸学

一月日不知知初

御月見仕

一 同六年己十一月日不知知為古老音車

法圖面每雛形 幸為上野白根
三枚米並

一 同八年未三月廿六日病死年七拾四

妻

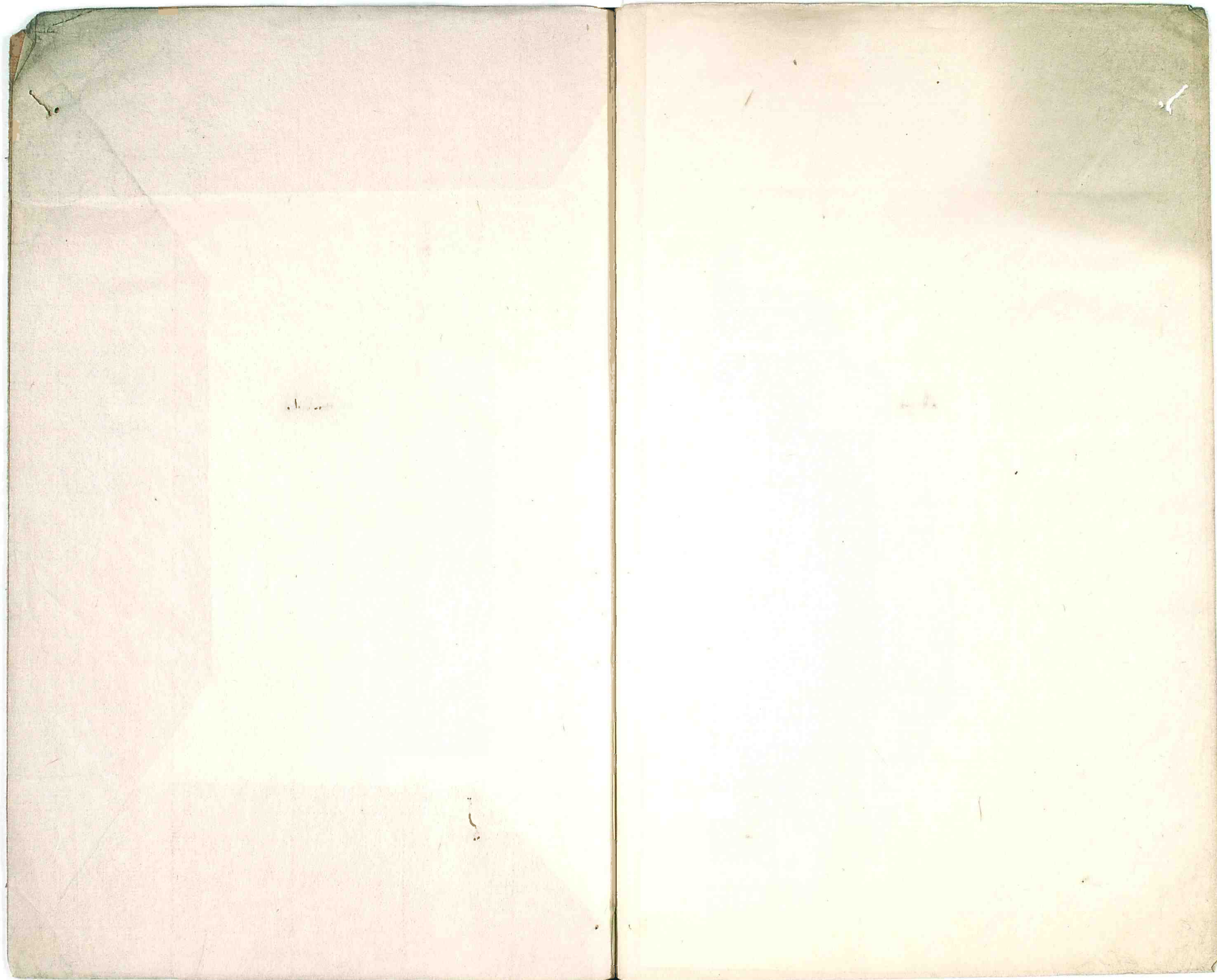
天田若女三履目及
立木新七女

京忠

老進

初務進

下畧



愛 知 県



1103184971